

# 仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。

今回の更新で31回目となりました。

100万人の防災!

「生き残り」「生き延びる」ための地震対策を始めましょう!

## ■ 備えあれば患いなし

平成21年1月13日掲載

「災害に備えましょう。備えがあれば被害を防ぐことができます。」と言われますし、私も皆さんに「宮城県沖地震の準備をしましょう。」とお話します。

よく言われる「備(そな)えあれば患(うれ)い無(なし)し」です。

では、いったい何を「備えれば」いいのでしょうか?

この言葉は「居安思危(こあんしき)」という中国の故事の一部です。

原文は「居安思危 思則有備 有備無患」と書かれます。

訳すと「安(やす)きに居(あ)りて危(あや)うきを思(おも)う 思(おも)えば則(すなわ)ち備(そな)えあり 備(そな)えあれば患(うれ)い無(なし)」と言うことです。

つまり、「普段(平時)から危ない所を知ると、そこを何とかしようと思うから、備えるので何かあっても大丈夫。」と言うことです。

「備えあれば患いなし」だけが有名になってしまったのですが、その前の「知る」事が大事なのです。

今回はこの「知る」ためのDIGという地域の取り組みをご紹介します。

DIG(ディグ)は、参加者が地図を使って防災対策を検討するゲーム形式の訓練です。

Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字を取って命名されたものです。「掘る」という意味を持つ英語の動詞でもあり、転じて、「探求する」、「理解する」といった意味もあり、「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という思いも込められています。

こういう風には書くと難しく思いがちですが、参加者が大きな地図を囲み、みんなで色を塗りながら、ワイワイと楽しく議論をしていくと、「自分と家族が住む地域に起こるかもしれない災害」を、より具体的なものとしてとらえることができます。

### ・準備品

白地図、ビニールシート、油性マーカー、ポストイット、丸シールなど  
「ワイワイ」「ガヤガヤ」楽しくが基本ですから、「お茶」と「お菓子」は必需品です。

・白地図の上にビニールシートを広げ、書き込みの準備をします。

白地図、ビニールシートはそれぞれテープなどで固定しましょう。  
また四隅をマーキングして置くと、シートがずれた場合や他のシートを重ねた場合



などの位置あわせに便利です。

- ・地域の形を浮き出す。



【ビニールシートの上から色を塗ります。

幹線道路は茶色、避難できるような空地は緑色、河川は青色、細い道路は赤色、もっと細い道路や行き止まりはピンク色といった具合に塗ります。

すると、「あれ？この避難所は橋が使えなかったら行けないよねえ。」「この辺りって崖が多くて孤立しそうだよねえ。」と白地図では見えなかったものが浮き出てきます。】

- ・お互いの情報を出し合う。



【地形以外の情報(危険なもの・有益な人や場所・災害弱者など)をお互いに出し、丸シールを貼ります。

シールの横には理由を書いたポストイットを貼ります。

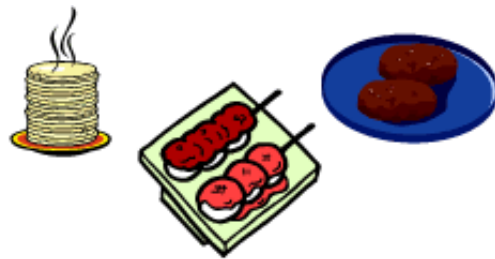
「ブロック塀」「看護師さん」「ガソリンスタンド」などです。】

- ・問題点を洗い出し考察する。



【思いついた問題点をポストイットに書いてどんどん貼っていきます。  
「救助に必要なものはどこに準備すれば良いか。」「高齢者はどこに、誰が避難誘導するか。」など、地域に潜む問題点が見えたならば、後はみんなで対処方を考えるだけです。】

## ※重要ポイント



参加者全員が気楽に意見を出すことが大事です。「お茶」と「お茶菓子」は必需品です。

このページに使用した写真は、皆さんの町内会などでDIGを円滑に進めるためのお手伝いをする人材を養成した「DIG指導者養成講座」の様です。

地域地震防災アドバイザーや消防団地震防災アドバイザーがファシリテーター（お手伝いする人）としてのスキルを身に付けました。

仙台市消防局では「基本的に必要な物品」「お手伝いする人材」を用意してお待ちしています。

私の地域でもやって見たいと思われた皆さん、ご連絡をお待ちしております。